



平成29年度

学校評価報告書

帝塚山高等学校



学校法人帝塚山学園

平成 29 年度学校評価について

帝塚山高等学校は、平成 29 年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、本校生徒とその保護者、卒業生を対象とした各アンケート結果、保護者等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山高等学校
校長 池辺 政人

1. 総括

建学の精神	「社会に有為な人材を育成する」	
本校の重点目標 (教育目標)	「人間力の育成と個々の進路を実現する教育の推進」 “個性・特性を伸ばし「知の力」「情の力」「意志の力」「躯幹の力」をバランスよく鍛え、高い知性と豊かな情操を備えた生徒を育成する”	
前年度の成果と課題	<p>[成果]</p> <p>個性・特性を伸ばす教育を推進するため、教科会を中心としたプロジェクトチームによる検討を重ね、シラバス、セミナー、講習の充実化を図った。生徒の学習意欲は高まり、自分から進んで学ぶ姿勢ができてきた。これからの対話的な授業にはICTの活用が欠かせないため、ICT機器の導入及びICTを用いた教科指導を行った。また、様々なプログラムを実施している特色教育については、平成29年度より、グローバル教育として、高校1年生のエンパワーメントプログラムや高校2年生のボストン大学研修など国際交流プログラムを通して、自分で課題を見つけその解決を図り表現する力を育成した。</p> <p>[課題]</p> <p>ICT機器の導入を積極的に行っており、音声映像による授業、デジタルでないといけない授業、電子黒板の有効活用など、ICTを用いた教育をより一層促進していかなければならない。</p>	
本年度の重点目標	具体的目標	総合評価
1. 個性を伸ばす教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ① 建学の理念に基づく教育目標の共有化 ② 教科指導の充実強化 ③ 特別活動・道徳教育の充実強化 ④ 進路指導の充実強化 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>知、情、意志、躯幹4つの力の教育の表れとして、高校3年生まで勉強とクラブ活動を両立しながら、目標とする大学へ進学した。コーラスコンクールの取り組みが高校3年生に成長するにつれ素晴らしいものになっている。自習室で自分から進んで勉強するなど日常の積み重ねが大学進学の結果に表れた。</p>
2. 入学志願者・入学者の安定的確保	<ul style="list-style-type: none"> ① 各学校との連携強化 ② 募集活動・広報活動の強化 	
3. 教育の意識改革・行動改革の実施	<ul style="list-style-type: none"> ① 組織運営の充実強化 ② 学校リスクの対策強化 ③ 財政健全化策の強化 ④ 学校評価の実質化 ⑤ 教員評価の実施推進 	

総合評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

2.-① 自己評価（教育活動に関するもの）

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己 評価	評価結果の分析 （評価の観点、理由）	今後の課題・改善方策	
教育目標・ 教育計画	教育目標の周知徹底	教職員への周知徹底はもとより、学校教育目標を保護者会や育友会総会等で確実に伝え理解いただく。（複数回実施）	A	教育目標の他、学校運営・行事計画等をまとめた冊子を、年度当初に全教員に配付し、周知徹底を図った。また、保護者には年4回の保護者会に加え、年2回の育友会において学校教育目標を説明し、理解いただいた。	今後も保護者会、育友会総会・委員会を通して教育目標を伝達していく。	
	教育計画の立案・実行	学校運営・学年運営・教科運営計画を作成して、実行する。	A	A	学校運営・学年運営・教科運営の各計画を冊子にまとめ、年度当初に全教員に配付し、周知徹底を図るとともに、共通理解のもと実行した。	新しい指導要領について整理と検討を重ねる。
	教育課程の工夫改善	平成32年大学入試制度改革をふまえた教育課程の工夫と改善を検討する。	B		年3回開催した教育課程編成委員会が中心となり、平成32年大学入試制度改革を見据えた教育課程を検討した。改善を加えた教育課程は平成30年度から順次実行に移す。	新たな大学入試制度に向けての検討を始める。
研究・ 研修	研修計画の立案・実行	研究テーマに沿った研修を計画的に実施する。（複数回実施）	A		校務分掌に沿い、「進路」、「入試」、「教育相談」、「人権」等をテーマにした年8回の研修会を計画し、実施した。	研修内容の更なる充実を図る。
	研修成果の活用	研修における成果を、教育力の向上や日常の教育活動に生かす。	A	A	進路指導や人権教育などの研修成果を、日常の教育活動にフィードバックし、特に生徒への声かけに直接生かすことができた。	進路指導や人権教育の研修内容のさらなる充実を図る。
	授業実践力の向上	互見授業を含む授業研究により教員の教育力や指導力を向上させる。（複数回実施）	A		公開授業を各教科1回以上、互見授業は3週間の期間を設けた。また、ICT機器の使い方紹介は1回実施するなど、教員の指導力の向上に努めた。	ICT機器を用いた公開授業を増やしていく。
教科指導	学習指導計画の実質化	年間カリキュラム、教科シラバスを作成して、実行する。	A		年度当初に各学年・各コースの特性を生かしたカリキュラム、シラバスを作成し、計画通り授業を実施した。	6年一貫教育の観点から発達段階に即した内容の整理をする必要がある。
	ICT教育の促進	3年計画でICT機材の利用を推進して、利用頻度を高める。	A	A	次期学習指導要領を見据え、中学校男子普通教室、中学校2年生女子クラスに電子黒板付プロジェクターを設置した。ICTを用いた教科指導は1学期989時間、2学期2,326時間の利用に達した。	平成30年度で全ての教室に電子黒板、プロジェクターが設置される。
	アクティブ・ラーニングの促進	アクティブ・ラーニング教育の研究と活用実践する。	B		アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた教科指導の充実に向け、教科会を中心にICT委員会を年6回開催し、アクティブ・ラーニングの研究、各教科別授業改善モデル（事例）の考察を重ねたと同時に、可能な限り順次実践に移した。	アクティブ・ラーニング教育の導入に向けてさらなる整理と研究をすすめる、公開授業をする。
特別活動・ 道徳教育	特色教育の充実	6年間を見据えた特色教育を行う。	A		キャリア教育講演会（1年生・2年生）、京都大学女子校生車座フォーラム・京都大学キャンパストークツアー（2年生）等の特色教育を実施した。	グローバル教育との連携を図る。
	部活動の活性化	生徒の活動状況を把握して、積極的に活動を進める。	A	A	理科部ロボット班がワールドロボットオリンピック（WRO）日本大会で優勝し、世界大会（WRO 2017コスタリカ国際大会）、FLL全国大会、RCJ全国大会に出場した。また陸上競技部、ギターマンドリンクラブ、放送部、数学研究部は、引き続き全国大会出場を果たした。	高校入学後も、継続するように指導している。
	人権・道徳教育の推進	年間計画を作成して、全体、ホームルーム（HR）、授業を進める。	A		人権教育推進委員会が中心となり計画立案した情報モラルや世界の子ども問題等のテーマをもとに人権・道徳教育を実施した。	今後も人権教育推進委員会を中心に計画を立てる。

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己 評価	評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策	
進路指導	情報の共有化	進路状況（内外）を把握するため、頻繁に会議を行う。	A	最新の入試動向、受験実績等の情報を、進路指導部が収集、分析し、その情報等を担任教員と共有するとともに、連携を強め指導にあたった。	学年会などに進路指導部長が細かく指示するなど組織的な運営を行う。	
	進路指導の充実強化	教務部、進路指導部が中心に計画を立てて、実行する。（進路指導満足度70%以上）	A	年5～6回の全国模試を校内で実施した他、大学教員・専門家による出張講義・出前授業、教科別・志望別の大学受験セミナーを実施した。また、進路指導の更なる充実強化に向けて継続実施しているアンケートを、本年度卒業生にも行った。進路指導に対する満足度は79.0%であり、昨年度77.0%より約2ポイント向上した。 進学実績は、国公立大学209人（東大4人、京大19人、阪大14人、医学部医学科22人等）。	進路指導報告会、講演会を今後も計画していく。	
教員評価	自己評価推進	教員の自己評価を推進して、日常の教育の改善を図る。	B	B	教員評価の実施には至らなかったが、生徒対象の授業アンケートに加えて、全教員にアンケートを実施した。授業、校務分掌の他、学校行事、クラブ活動等の成果を自己分析し、その結果を次年度の教育活動に役立てるよう指示した。	授業を見直すための生徒対象アンケート、自分自身を見直すアンケートを今後も続ける。
教育連携・内部進学	帝塚山大学との連携推進	帝塚山大学教授による特別講義を実施する。（1回実施）	A	高校2年生を対象に、2月21日に大学教授による出張講義を実施した。他、理科部ロボット班と大学現代生活学部こども学科の学生が連携した小学生対象のロボット教室を継続実施した。	理科部ロボット班とこども学科との連携に加え、大学教授による出張講義を今後も継続実施する。	
	帝塚山小学校との連携推進・小中内部進学の充実	帝塚山中学校・高等学校教育を内部児童・保護者に伝え、内部進学を推進する。	B	A	帝塚山中学校とともに、帝塚山小学校の6年生保護者対象内部推薦説明会、5年生保護者対象説明会、5年生生徒対象見学会・体験授業に加え、本年度から新たに4年生保護者対象説明会を実施した。	内部進学推薦が制度化されて3年目の運用となるが、小学校からの内部推薦充実化に向け今後検討が必要である。
	中高内部進学の充実	帝塚山高等学校の教育目標・方針等を保護者に十分説明し理解いただく。	A	帝塚山中学校からの内部進学者は在籍者312人のうち296人、94.9%で、例年並みの実績であった。	内部進学を今後も充実させていく。	

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

2.-② 自己評価（学校経営に関するもの）

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価	評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
組織運営	組織運営目標及び方針の周知徹底	「知・情・意志・躯幹の力」の教育を周知徹底する。（複数回実施）	A	管理職等による運営委員会を年25回実施し、進路、教育課程、生徒指導等の連絡・報告を密にするなど組織運営の充実に注力した。また、年度当初に、「知・情・意志・躯幹の力」の教育の周知徹底を含め、学校運営・学年運営・教科運営の各計画をまとめた冊子を全教員に配付し、共通理解を図るとともに、朝礼及び年12回の合同職員会議において、目標及び方針の都度確認を行った。	水曜日の会議を今後も実施し、組織運営、方針の徹底を図る。
	教員の適正配置	年度の教育方針に基づき、校務分掌を踏まえた適正な配置を行う。	A	必要とする教員数を配置するとともに、教科間のバランス、男女比及び年齢構成比を考慮するなど、適正な教員配置を実施した。	どの部署でも活躍できる体制にする。
	会議運営の充実	合同職員会議を校長の諮問機関として、課題解決の会議として機能させる。	A	年度当初の計画に基づいた会議、必要に応じて開催した臨時の会議の他、学校法人の協力を得ながら、都度課題解決を図った。	教員間の連携を一層深める。
安全管理・保健管理	学校安全計画立案	学校安全計画を立て、実施する。	A	学校安全計画を立てるとともに、掲示物などを通じて緊急体制について周知徹底した。	緊急体制に教員全員が対応できるようにする。
	学校防災計画立案	学校防災計画を立て、防災訓練を実施する。（年3回実施）	A	AEDを用いた救命救急講習会及び消火訓練を7月、12月、3月計3回計画した。	火災避難訓練、地震避難訓練を今後も実施する。
	危機管理体制強化	危機管理マニュアルの周知徹底のうえ、避難訓練を実施する。（年3回実施）	A	AEDを用いた救命救急講習会及び消火訓練を7月、12月、3月に実行した他、11月に学園前キャンパス一斉の避難訓練を、幼稚園、小学校、中学校及び大学と合同で実施予定であったが、雨天の為中止となった。	救急救命講習、消火器具取扱講習を今後も実施する。
	学校保健計画立案	学校保健計画を立て、実施する。	A	生徒指導・学年・保健室が協力して学校保健計画を立て、4月～5月に健康診断を実施した。また、養護教諭に加え、看護師を常に配置した。	健康診断、検尿などを今後も実施する。
募集活動	募集計画の立案・実行	年間を通して計画を立て募集活動を行う。	A	校内での入試説明会を年3回開催した。参加数は496家庭で、昨年度より106家庭増加した。また、完全WEB出願を導入した。	入試説明会、学校見学会を今後も充実する。
	広報活動の強化	各説明会及びホームページを通して、教育内容の説明を行う。（延べ志願者数昨年度より増加）	B	校内での入試説明会説明会の他、ホームページの「校内ニュース・トピックス」により最新の教育活動を発信した。内部進学者を除く延べ志願者数は961人で、昨年度より123人減少した。	ホームページの古い内容を新しい内容に入れ替える。
	関係機関との連携強化	関係諸機関との連携を強化して、時代に即した募集活動を行う。	A	進学塾、予備校、進学情報会社等外部機関の協力を得ながら、募集活動の更なる充実強化を図った。	1年間を通して関係諸機関との情報交換を密にする。
学校評価	自己評価の実施	自己評価を実施し、公表する。（総合評価「A」確保）	A	高校2年生、3年生の保護者を対象にアンケートを継続実施した。アンケート回収率は、2年生は81%、3年生は81%で、主に、教育課程、学習指導、進路指導等で高い評価を得た。生徒アンケートの他、保護者アンケート、卒業生アンケートの各結果を踏まえ、自己評価を実施し、その結果をホームページで公表した。	高校2、3年生の保護者にアンケートを今後も続ける。
	学校関係者評価の実施	学校関係者評価を実施し、公表する。（総合評価「A」確保）	A	自己評価のうちA評価が全項目の約80%であること、また学校関係者評価委員会からの意見に対し改善方を示していることにより、同委員会から、本校の運営は良好との判断を得た。同評価結果は本年度分からホームページで公表することとした。	学校関係者評価は今後も続ける。

評価項目		具体的目標・方策及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己 評価	評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
学校運営	クラス数の確保	入試状況を見ながら適正クラスを確保する。(1学年9クラス編成)	A	入学者330名で8クラスとなった。計画クラス数より1クラス減少した。	教育計画どおり9クラスにとどめる。
	物件費の節減	厳正な予算執行し、節減を行う。(印刷費10%削減)	A	ペーパーレスの奨励、WEB出願導入により、募集要項、入学手続き書類関係の印刷経費および袋詰め作業委託料等は、昨年度より約49%削減することができた。また、保護者への案内にスクールiネット(メール配信)を活用したことにより、担任業務の軽減が図れた。	保護者への連絡にとどまらず、職員間もメールで情報交換をする。

評価は4段階【A：十分である(よくできた)、B：ほぼ十分である(できた)、C：あまり十分でない(あまりできなかった)、D：改善を要する(できなかった)】

3. 学校関係者評価

意見	改善方策
① 国際交流プログラムは充実されてきているが、異文化交流の機会をさらに増やしてもらいたい。	① 平成29年度は高校においては、2年生のボストン大学研修を実施しました。中学校においては、シアトル海外研修、サイエンスキャンプ、アジアスタディーツアーを実施しました。以上の学校行事以外に、ギターマンドリン部が台湾の永和国民中学との交流演奏会を実施しました。6月には台湾の桃園市にある東興国民中学が来校しダンス部との交流を行いました。また、今夏には台湾から来校され音楽系クラブとの交流を実施する予定であり、さらに、ブラジルからも来校されサッカー部との交流を実施する予定です。今後も機会があれば積極的に国際交流に取り組み異文化交流の場を増やして行く予定です。
② グローバル教育について、どのような取り組みをされているのか。	② 本校ではグローバル教育に注目し、「多種多様な価値観と倫理観の理解、協働的な活動からの創造力、そして、コミュニケーション能力・議論力」を身につけたグローバルリーダーの涵養を目指すべく、教育プログラムの運営を行っています。平成29年度は高校においては1年生を対象としたエンパワメントプログラムin帝塚山高等学校を実施しました。エンパワメントプログラムは、国内でできる海外有名大学への留学体験で、本校を会場に、ハーバード大学、カリフォルニア大学などの大学院生と5日間、英語漬けで議論やプレゼンテーションを行う探求型学習プログラムを実施しました。中学校では、3年生を対象にガー・レイノズル氏や平田オリザ氏によるグローバルキャリア教育講演会を実施しました。今後も、グローバルキャリア推進委員会を通して、特色あるプログラムを実施してまいります。
③ 大学入試制度改革の対策として、どのような取り組みをされているのか。	③ 大学入試制度改革に向け、高校1年生からクラッシュイのソフトを採用し、探求活動や課外活動、資格・検定等の実績をeポートフォリオに蓄積していくこととなります。タブレットを持っている生徒は自宅でも入力できますが、2学期から週2回放課後に、教室を開放し、タブレットの貸与も行う予定にしています。
④ 課外活動が活発に行われているが、クラブ活動の補助がどのように行われているのか。特に、世界大会に出場している理科部ロボット班について。	④ クラブ活動補助の規程により、補助を行っています。ただ、理科部ロボット班のように世界大会に出場するクラブには引率教員の渡航費用も含め特別に補助を行っています。今後もクラブ活動がより活性化できるよう、公平に補助を行うことを原則に規程の見直し等を検討していきたいと思っています。
⑤ 学園祭、体育祭等の内容が面白くなってきているが、何か特別な取り組みがなされているのか。	⑤ クラブ活動および学校行事で生徒が主体的に取り組むよう推進してきた成果が保護者の目に留まっているのだと思います。体育祭の企画を中高生徒会に委ねたこと、学園祭は、生徒への指導は出来る限り控え、生徒の主体性に任せたことが成功したと思われまます。準備に失敗を重ね完成させることも良いことだと判断しています。他の行事についても同じく生徒が主体的に取り組むよう推進していき、保護者からも評価いただける学校行事を運用していきたいと考えています。